

環境省版「植物レッドリスト」が新しくなりました

環境省が作成した、国内の生物種のうち絶滅を危惧される生物のリスト、つまりレッドリストはこれまで2000年に作成されたものが最新版として利用されていました。維管束植物(被子・裸子・シダ植物をあわせた分類群で、コケ植物や藻類はここに入らない)は1,665種がリストアップされ、日本の野生植物のうち「4種に1種が」と当時マスコミで報じられたのを覚えている方も多いでしょう。

自然環境は刻一刻と変わっていきます。当然レッドリストも常に更新されていかねばなりません。維管束植物については2003 2004年にレッドリスト見直しのための再調査が行われました。その結果が動物などとあわせて今年、2007年8月3日に発表され、われわれも環境省のウェブサイトで新しいリストを閲覧することができます(8月3日に発表されたリストには学名のスペルミスなど誤りが多く、10月5日に修正版が発表されました)。今回は最新版環境省レッドリストの変更点のうち、知床半島でみられる維管束植物を中心にみてみましょう。

はじめに絶滅危惧のカテゴリーについておさらいをしておきます。環境省の策定したカテゴリーは絶滅(EX)を筆頭に絶滅のおそれの高い順に、野生絶滅(EW)、絶滅危惧IA類(CR)、絶滅危惧IB類(EN)、絶滅危惧II類(VU)、準絶滅危惧(NT)、情報不足(DD)という順にランキングされ、一般に「絶滅危惧」というときはCR、EN、VUの3つを指します。

最新版レッドリストでは絶滅危惧と判定されている植物種数が1,690種、2000年の1,665種に比べて1.5%増とそれほど変わっていません。しかし中身は大きく動いたようで、ランクが変わっていないのは933種と56%にすぎません。環境省の報道発表によれば、今回の見直しでCRとENだった種はランクが下がり、VUだった種はランクが上がる傾向があったということです。

まず目を引くのがEXと新たに判定された17種です。絶滅 疑いなく日本の最後の1個体が死亡した と新たに判定された17種のうち、カラクサキンボウゲとホソスゲは国内では北海道にのみ分布する種でした。どちらもCRからの変更で、カラクサキンボウゲは道東の浜中で1970年代半ばを最後にみつかっておらず、ホソスゲは道北の猿払で1954年に採集されたものが最初で最後の記録です。

この2種のなかでも、ホソスゲは道北で時間をかけて探してみたいスゲとしてずっと心にひっかかっていたものでした。今回の判定はとても残念ですが、本当なのかな、という気持ちも多少はあります。自分の心を納得させるためには、やはり一度はきちんと歩いてみようと思っています。

逆にすべてのランクから外れた種類もあります。知床周辺でみられるものにはシコタンタンポポがENから、フクジュソウ・キタミフクジュソウ・ホザキシモツケがVUから、コアマモがDDからそれぞれ無印となりました。シコタンタンポポは知床岬や半島の羅臼側にあると思われますが、知床では私自身が斜里側の大型エゾタンポポをシコタンタンポポと誤認していたこともあり、在来種タンポポの分類の難し

さを感じています。道東でネムロタンポポといわれているものを含めて再検討し、道東全体の確実な分布と個体数を見直して再評価する必要があるかもしれません。

知床半島でみられるフクジュソウ類はほとんどがキタミフクジュソウですが、これがランク外となったのは十分な個体数があると判断されたのでしょう。しかし現在も園芸目的の採取は絶えないため、今後も引き続き見守っていく必要を強く感じます。またホザキシモツケは湿原の植物ですが、斜里町内ではすでに乾燥化した地域にもいまのところ比較的多く残っています。これも今後より乾燥化が進んだ後にどう変化していくのか注意が必要です。

新たに無印から追加されたものもあります。知床周辺でみられるものには、エゾムギ・カイサカネランがCR、ラウススゲがEN、ハマウツボがVU、ヒメカイウがNTとなりました。知床ではエゾムギは1954年の報告以来ずっと再確認がなく、カイサカネランは2000年に初めて確認されてから再確認がありません。ラウススゲは高山の湿原でみられる植物で、シレトコスミレと同じく日本では知床半島にのみ分布しています。

前回は情報不足と判定された種で、今回新たに絶滅危惧のランクが与えられたものもあります。知床から斜里平野にかけて海岸草原にみられるムラサキベンケイソウはこれまでDDでしたが、最新版ではVUと判定されました。また高山植物のチシマスズメノヒエは情報が集まらなかったようで、これまでと変わらずDDのままです。一方、すでにランクが判定されていたにもかかわらずDDになったものもあり、マシュウヨモギがVUからDDとなりました。チシマスズメノヒエもマシュウヨモギも知床にあることになっているのですが、私自身はっきり「これがそうだ」と自信をもって言えるものに出会っていません。来年以降の植物調査における重要な課題です。

その他、知床半島でみられる植物のうち、大きくランクが上下したものでは高山植物のメアカンキンバイがCRからVU、湿原でみられるイトキンボウゲがENからNTと2種でランクが下がり、やはり湿原でみられるシュミットスゲがVUからCRとランクが上がりました。

ここまで最新版の環境省レッドリストでの主な変更点をみてきました。自然環境の評価や、植物調査の優先順位などは今後これに合わせて変更されていくことになるでしょう。おそらく2013年頃にはまた見直しの調査が行われますが、それまでに解決しておかねばならない課題も色々とみえてきました。日本から絶滅してしまった種を悼み、来年からの稀少植物の調査を改めて考える年の瀬になりそうです。

(内田 暁友)

発行 斜里町立知床博物館協力会 2007.11.22

099-4113北海道斜里郡斜里町本町49

斜里町立知床博物館内

TEL: 0152-23-1256 FAX: 0152-23-1257

<http://www5.ocn.ne.jp/~museumsp/>